



百人一首と CL(五)

2016

David K. Reynolds

この随想集は日本の百人一首が元になっています。どの作者の詠んだ一首か、捜し当てるのも一興です。アメリカ・ロスアンゼルス CL インストラクター Paul Kroner さんが世界中のインストラクターに毎月発信している「CL News」letter に一首ずつ掲載されています。

あなたは誰のために死にたいか？
なんのために死にたいか
借りた人生の貸し主にどう返済できるか

私利私欲を満たして、怒り
人生身につかない（自己中心）
愛があふれ出て（他のこと、人に目が向かう）
成長を助ける

曇った空は目にやさしく
肌がよみがえる
心には憂うつが漂う
空に憂うつはない

睡眠時のために旅行中はいろいろなベッドに会う
ときには孤独を学ばねばならない

楽しいか、つまらないか
自分についての記憶は自分ではない
望んだ自分は自分ではない
自分の記録も自分ではない

時と場所でへだてられ
思い出の人を愛するようになる
でも触れることはない
愛した人がいたのは 本当でも、離れてしまった

名前がぴよんと表に浮かんでくる
しばらく覚えていても時の流れでまた忘れる
川の流りに浮き沈む葉っぱのように

「死」については言葉そのものだけでしか知らない
一度もそこに行ったことがないし
死を学びたいとは思わない
この先「知る」としてもわからない

後ろから見られる姿がいい女性がいる
亡くなった葬儀の後に一番記憶に残る男性がいる
「古き良き日々」は心のビンに詰める前にろ過される

苦しみは両極端な愚かさ
痛みをしっかりとつかもうとすると
両方の手を燃やす
苦しめる人と被害者のどちらも存在しない

待つことと忍耐はちがう
待ちながら、いらいらしながら
自分のすべての時間をうまく使う

この家の家具は動かない
じっとした家の中で、私の心は動きを生み出さなくてはならない
外では木の枝が風で揺れている
私の心は木とともに回転する

(アメリカ・オレゴン州 CL センター 所長)